

+1 (プラスワン)

「スイング・バイ イエス」

牧師 横山順一

先月あたまた、一年ぶりにはやぶさ2号が地球へ戻って来た。そしてスイング・バイを利用してスピードを上げ、新たに旅立った。多くの人が注目したことだった。

同機は、二〇一四年十二月三日に打ち上げられた小惑星探査機「C型小惑星「リュウグウ」到着を二〇一八年半ばに目指し、五十億キロの旅路をたどる。

リュウグウからサンプルを持ち帰ることができれば地球生命の起源に迫ることができると期待されている。

今般「スイング・バイ」なる単語を初めて聞いた。不明を恥じるばかりだが、実は何十年も前から使われているもので、はやぶさ1号もそれで「イトカワ」の探索に成功したのだった。

詳しい仕組みなど知らないが、要するにハンマー投げのごとく、地球の引力を利用して、軌道変更したり、スピードを加減できるの

だそう。

これを利用するなら、燃料消費を相当削減できる便利な力ともなる。今回ははやぶさ2号は速力が秒速三十、三キロから三十一、九キロに上げられた。

わずか一、六キロというなかれ、なにしろ秒速の世界だ。時速に換算すれば何と五七六〇キロも早くなったのだから！

帰還予定は二〇二〇年末、あと丸五年ばかりもかかる壮大な計画だ。東京オリンピックの年、はてさて無事に戻るか楽しみではある。

このスイング・バイ、地球のみならず天体おしなべて持つ引力の利用なのだが、ふと考えれば、人間にも備わっている力ではないか。そう感じた方も少なくないのでは？

何等か魅力を持つ人間には、オーラが放たれ、人を引き付ける引力があるものだ。

もちろんそれは、良いものの場合もあり、時に悪いもの場合もありうる。

「この人のようになりたい」と憧れて近づいた方がいいが、一緒に

悪に染まる例もあるし、到底近づけないと悟って力を落とすこともよくある。

けれど、引力によって、更に高みに引き上げられることができた、最高の出会いとなる。世界はそういう例にも満ちている。

私たち教会に集う者にとって、その引力の最大の源はイエス・キリストに尽きる。

この方の言動、歩みに引き付けられ、減速したり、スピードアップしたりしながら、思いがけない軌道に乗せられるのだ。

残念ながらいつでも低燃費とは行かない。余計な馬力をかけてしまふこともあるし、いつの間にか引き戻ってしまうこともある。

それでもイエスという引力に引き寄せられ、押し出され、神さまの描かれる軌道に修正されつつ歩む私たちだ。

スイングとは、揺れるとか、くると回るとかの意味の他に、ぶらさがる、のびのびした歩み、行動の自由という意味もある。イエスによってスイングしよう。